

2021年12月1日WED — 2022年1月30日SUN

碧南市哲学たいけん村無我苑 瞑想回廊

9:00 — 17:00 月曜日休苑 12/29-1/3 休苑 1/10(月祝)は開苑、1/11(火)は休苑

主催 碧南市・碧南市教育委員会

お問い合わせ 無我苑瞑想回廊事務室 0566-41-8522

Workshop

光るオブジェづくり

12月12日(日)10:00~12:00

1月16日(日)10:00~12:00

会場_哲学たいけん村無我苑 研修道場安吾館

講師_山口聡嗣

ROAD 「途」 — Michi

山口聡嗣 展



ROAD「途」— M I C H I

光による変容を感じるインスタレーションの中で、『この道は、正しい道なのだろうか』と歩きながら考える・・・

そのような状況のもと（あなたが実感していること）により、作品は完成します。

今の日本で、人々がいろいろな思いを抱えて歩んでいる「途上である」ことを意味する『途（みち）』という副題がついた作品をご覧ください。

『途（みち）』という副題がついた作品をご覧ください。



2020 年個展
SWITCHES



2018 年グループ展
LIGHT ART EXHIBITHON 5

2019 年個展
無「関係」についての考察



今回の出品作品から

新型コロナウイルスが、中国武漢で猛威をふるっていた頃、日本では対岸の火事のように考える風潮があった。なぜかその時、不思議な違和感があった、新聞記事による客観的な事実を再構成することで、日本の歩んだ道を作品化しようと考えた。通路の壁面に記事に埋め尽くされ、その中を歩くイメージである。記事を読みながら、過去の出来事に対して「もっとこうしたらよかったかも」と感じながら、観る人が再認識してほしいと考えた。しかしそれだけでは、何か足りない。そこで希望を感じる表現にしたいと考えた。新聞を貼った壁に穴をあけ、そのことで閉塞感を打開することを象徴的に表現したいと思った。そんなある日、まだコロナの扱いが不透明な中で現職の首相が「あかりが見え始めている」と記者会見で述べ、理解しがたい思いを抱いた。そこで、不安定だがかすかな光を用いて、希望への指針を表したいと考え、今回の作品となった。その中で、お考えが展開していくことを望みます。

Workshop

光るオブジェづくり

針金で骨組みを作り、その周りに和紙を張ったオブジェを作ります。その中に、ろうそく型の発光ダイオードを入れて完成です。

会場／哲学たいけん村無我苑 研修道場安吾館

講師／山口聡嗣

定員／各日 10 名（先着順）

参加費／700 円（呈茶 200 円券 1 枚付き）

申込み方法

11 月 20 日(土)10:00～下記 QR コードより電子申込
又は、下記電話番号にて電話受付。受講料お送付する納付書で払い込み、又は、受付後 10 日以内に、無我苑瞑想回廊事務室にて、お支払いください。

tel : 0566-41-8522

<第 1 回>
12 月 12 日(日)
10:00～12:00



<第 2 回>
1 月 16 日(日)
10:00～12:00



山 口 聡 嗣

三重県生まれ／三重県桑名市在住

愛知県立芸術大学美術学部美術科 油画専攻卒業

筑波大学大学院修士課程 芸術研究科 洋画専攻修了

- 個 展 1986 年（ギャラリーはくぜん 名古屋）
1993 年（愛知芸術文化センター 名古屋）
1995 年（Ts ギャラリー 名古屋）
1996 年（ギャラリー坂角 名古屋）
1997 年（つくば美術館 つくば）
1997 年（同和火災ギャラリー 東京茅場町）
1998 年（筑波大学内 つくば）
1998 年（Ts ギャラリー 名古屋）
1999 年（小野画廊 銀座）
2000・2003 年（ギャラリー坂角 名古屋）
2013 年（三重画廊 三重県津）
2017・2018・2019・2020 年
（ART SPACE IGA 三重県伊賀）
- グループ展 1985 年『パラノイア』（愛知県立芸術大学内）
1985 年『Movement '85』（名古屋市博物館）
1987-1995 年『けやきの会』（鈴鹿市文化会館）
1996 年『激楽展』（筑波大学内）
1996・1997 年『MC 展』（つくば美術館）
2018・2019 年『LIGHT ART EXHIBITHON』
（崇高堂 三重県伊賀）
- パフォーマンス 1997 年『再演—劇場の三科』（筑波大学内）

